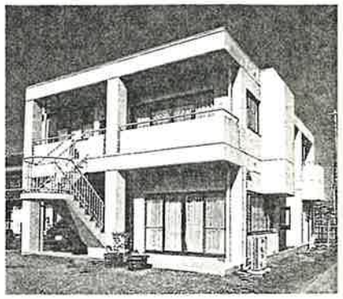
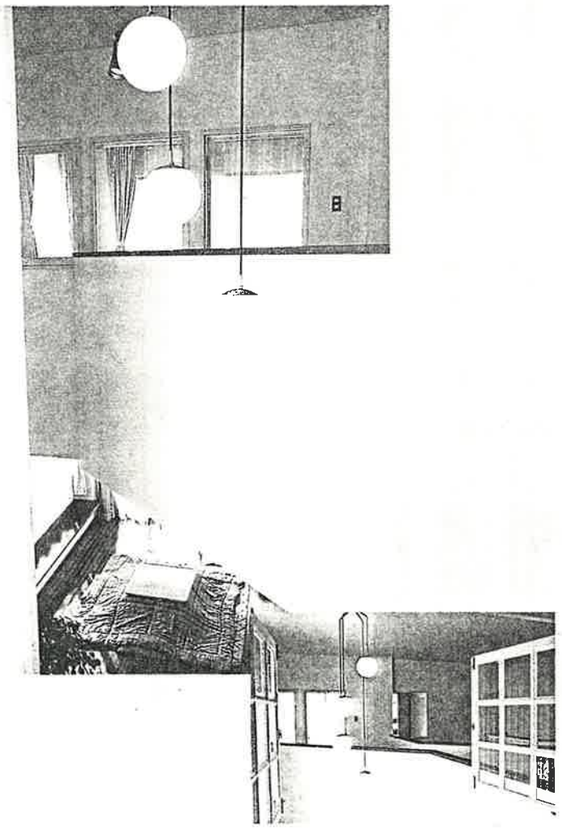
建築士の作品

建築士の作品6人目は、企画から施工、メンテナンスに至るまで全てを自社で責任受注している久保田要氏。RCの外観から受ける印象とは異り、内は木がふんだんに使用された暖かい住宅を紹介してくれました。



住まいの中心にふれあいのメディア

久保田要氏設計による田富町・T氏邸



家づくりの"きっかけ"と"その気になる"こと

人々が自分の家を持とうとする時、いろいろなケースときっかけがあるものです。ここに御紹介しますTさんの場合は、突然父親が病に倒れ、身近にいて看病するということが新居をつくるきっかけになったようです。以後逢うたびにどんな家が自分にふさわしいか、アドバイスしてくれと、頼まれていました。そのたびに話してきたのは、自分の家の個性を充分に出すにはどうすれば良いかということです。私共はイメージを空間として表現するプロ〝職人〟です。また私共がイメージする〝あなたの住まい〟との間に葛藤があって、それが何回かのプロセスを経て、自然と型になっていくものですと……。

よく、器を見て自分をその器の中に合わせてしまおうと考えがちですが、住宅は人それぞれがみんな違うように、すべてが違った要素を持っています。無限大に近い要素とメジャーの組合せは、二度と同じ表情を持つことはあり得ませんと……。この様な話を何回となく話しているうちに、接点が見出されてきました。Tさんも物づくりに接する人で、「自分のつくったものが命を吹きかえす瞬間を何回か見たが、家づくりも同じだね！」と言われ設計をスタンバイしました。このように家づくりを〝その気になる〟のに長い時間の経過とハートのぶつかり合いがあって初めて、信頼の上に進められるものです。

イメージの構築・午前10時の壁の発見
——エコロジカルWall——

T邸の場所は田富町をかなり南下したところで、古くから農村聚落が連担しているのどかなところです。実家の母屋の東脇の倉庫を解体し、そこに母屋と併存して計画する条件があります。この与条件は、二世代同一敷地内の併存タイプで互いのプライバシーを守り、かばいあいながら二世代が住まう最も理想に近い住まい方であります。東側に位置する新居地は、東、南西と遮るものはなにもなく、日当り、通風は十分であり、また程良い距離をおいて身延線がコトコトと語りかけてくる様な楽しさのある風景であります。この風景を食堂、居間に借景として取り入れることと、朝陽を食堂に入れることで居間の位置が必然的に決まりました。また一般的には東、南と大きく開口部を取るため、大きな絵が掛けられる様な壁が欲しい所に取れない例が良くありますが、ここでは家の中心から東側に1～2階連続の大きな壁を持つことが出来ました。それは、中心より南東方向に伸びる壁で、午前10時を境に、それ以前は陽をたっぷり入れ、それ以後は、必要な暑さ（夏場）を入れないという機能を持った壁であります。

また南北に長い敷地特有の日射し条件の悪さをこの壁をつかうことにより、日は欲しいし、壁は欲しいという、欲ばりなことが一挙に解決できることになりました。

それから吹抜の意味として、今日的には言うまでもないことではありますが、家族の一人一人のふれあいのメディアとして、各々の空間の結びつけと私は位置づけています。その空間の中を実際に継ぐのがブリッジであり、それは各々の視線(View)を巧みにかいくぐりながら掛けられるのであります。つまり母親が台所で夕飯の仕度にコトコトと俎をたたく音が家中に響き、母のありがたみと、生活のリズムを感じ、夜遅く帰宅する父親の興奮が子供心に鳴り響き、また子供達が子供室で勉強したりしている姿がちらっと見える空間でもあります。それは家族が無言のうちにもそれぞれ何をして、何を感じているのかいつもわかりあえる装置でもあります。この吹抜空間は太陽光を十分に取り入れて、暖房効率を高め、家の広さを獲得し、豊かに伸びのびと暮らせる生活を約束するのです。

工事について

工事は、技術と時間が品質と精度を表現するのでありますが、それ以前に材の仕入れ乾燥が建築の場合仕上った後、特に数年後に差が出てくるものです。ここで手前味噌になりますが、我流の範囲でやっていることを述べたいと思います。それは木材の乾燥に数年、自然乾燥しておくということです。請負ってから材を購入したのでは、すでに間に合わないのであります。日ごろ適量の在庫をして乾燥させておいて始めて狂のない、良質の建築が出来るのであります。

木はいつも呼吸をして伸縮しています。十分に乾燥した材はたえず自らの範囲で自然界の湿度と温度に呼吸していきながら、私達の住まいを調節してくれます。この木の伸び縮みが私達の目に触れたとき、透間があったり、建付けが悪いと、クレームに繋がります。この様に日本に於ける建築は特に木の伸縮が命といっても過言ではありません。その伸縮を自由に操ることが私共建築のプロとしての評価にも繋ると思います。また技術を駆使する職方衆と建築士との信頼関係も重要であります。金と時間だけで割り切れないのが建築であり、手間を掛ければ掛ける程、良い物が出来るわけでありますが、その連携プレーが良ければ手戻りのない良い仕事が出来、コストの廉価にもつながります。つまり、無駄のない工事が出来るということです。イメージを職方衆に出来るだけ早く上手に伝えることが、建築での重要なポイントであり、それにエネルギーを十分かけることが良い住宅づくりに繋がると信じています。

このT邸に於いて努力してくれた松田さん、いつも私の無理を聞いてくれている仲間の職方衆に、この誌面を借りてお礼を述べたいと思います。